

モニタリング間隔が 10 年となる保護林の一覧表（案）

- ・ 朝日山地森林生態系保護地域
- ・ 吾妻山周辺森林生態系保護地域
- ・ 飯豊山周辺森林生態系保護地域
- ・ 奥会津森林生態系保護地域
- ・ 利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域
- ・ 佐武流山周辺森林生態系保護地域
- ・ 甲子・二岐山周辺生物群集保護林
- ・ 越後山脈生物群集保護林
- ・ 大佐飛山地生物群集保護林
- ・ 尚仁沢生物群集保護林
- ・ 阿武隈高地生物群集保護林
- ・ 小松原湿原生物群集保護林
- ・ 守門岳生物群集保護林
- ・ 和尚山ブナ希少個体群保護林
- ・ 猿ヶ城アズマシャクナゲ希少個体群保護林
- ・ 板木リンボク・カゴノキ希少個体群保護林
- ・ 西金砂スダジイ希少個体群保護林
- ・ 花瓶山ブナ・イヌブナ希少個体群保護林
- ・ 黒沢ウラジロモミ・クロベ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 刈込湖コメツガ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 裏見の滝コナラ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 原付ヒノキ希少個体群保護林
- ・ 大真名子コメツガ希少個体群保護林
- ・ 観音山スギ・シブカワツツジ希少個体群保護林
- ・ 本坂峠ヤブツバキ希少個体群保護林
- ・ 増沢モミ希少個体群保護林
- ・ 滝サワラ希少個体群保護林
- ・ 八幡岳周辺ブナ・ミズナラ希少個体群保護林
- ・ 俎倉山スギ希少個体群保護林
- ・ 白山ケヤキ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 目指岳コウヤマキ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 大久蔵トチノキ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 猿ヶ城岩オオフジシダ希少個体群保護林
- ・ 八溝山シロヤシオ希少個体群保護林
- ・ 流石山・大峠ミヤマナラ希少個体群保護林
- ・ 谷川岳サワグルミ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 玉原アスナロ希少個体群保護林
- ・ 法師クロベ希少個体群保護林
- ・ 犬ヶ岳ホンシャクナゲ希少個体群保護林
- ・ 蓮華ライチョウ希少個体群保護林
- ・ 龍ノ山ヒメコマツ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 喰丸峠ケヤキ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 飯豊スギ希少個体群保護林
- ・ 根本沢シオジ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 白川ウラジロガシ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 津島マツ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 赤井岳ヒノキ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 黒斑山カラマツ希少個体群保護林
- ・ 万座カラマツ希少個体群保護林
- ・ 箱根ヒメシャラ・ハコネコメツツジ希少個体群保護林
- ・ 榎橋ブナ遺伝資源希少個体群保護林
- ・ 雨生池アマゴイルリトンボ希少個体群保護林
- ・ 笠堀カモシカ希少個体群保護林

区分	保護林名称	過年度モニタリング調査における評価結果
森林生態系保護地域	朝日山地 21,718.77ha	<p>【評価結果：平成 25 年度モニタリング結果概要】</p> <p>本保護林は広大な面積を有するため、1 つの群落に対し調査プロットを複数設け、さらに詳細に現況を把握する必要がある。ミズナラのナラ枯れについて、保護林外ではあるが標高の低いところで立ち枯れが目立つため、今後も、被害の拡大を注意深く監視する必要がある。</p>
森林生態系保護地域	吾妻山周辺 8,197.68ha	<p>(阿武隈川計画区)【評価結果：平成 25 年度モニタリング結果概要】</p> <p>森林調査の結果、前回調査と比較して大きな変化は確認されなかった。本保護林を代表する森林植生であるオオシラビソの優占した植物群落は、垂高木・低木に枯損した立木が目立つものの、次世代を担う垂高木・低木が健全に生育して正常な更新が行われていると評価される。また、キタゴヨウ群落、自然ササ草原(チシマザサ群落)も健全に生育しており、保護林は良好な状態で維持されていると評価される</p> <p>(会津計画区)【評価結果：平成 27 年度モニタリング結果概要】</p> <p>森林調査、植生調査の結果、前回調査と比較して大きな変化は確認されなかった。本保護林を代表する森林植生であるブナ、オオシラビソの優占した植物群落は、環境条件が厳しい場所に成立しているため群落の成長は悪いが、その条件に適応した形で成立している。また、より条件の厳しい場所に成立している、高山ハイデ・風衝地植物群落、湿田・雪田植物群落、自然ササ草原も、群落構造に変化は認められず、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。</p>
森林生態系保護地域	飯豊山周辺 18,343.01ha	<p>(下越計画区)【評価結果：平成 25 年度モニタリング結果概要】</p> <p>森林調査の結果、前回調査と比較して大きな変化は確認されなかった。本保護林を代表する森林植生であるブナの優占した植物群落は、低標高地から高標高地にわたって分布し、次世代を担う垂高木・低木も含め、健全に生育して正常な更新が行われ、保護林は良好な状態で維持されていると評価される。</p> <p>(会津計画区)【評価結果：平成 27 年度モニタリング結果概要】</p> <p>森林調査、植生調査の結果、前回調査と比較して大きな変化は確認されなかった。本保護林を代表する森林植生であるブナ、ダケカンバの優占した植物群落は、環境条件が厳しい場所に成立しているため群落の成長は悪いが、その条件に適応した形で成立している。また、より条件の厳しい場所に成立している、自然低木群落、雪田植物群落も、群落構造に変化は認められず、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。</p>
森林生態系保護地域	奥会津 83,992.18ha	<p>【評価結果：平成 27 年度モニタリング結果概要】</p> <p>森林調査、植生調査の結果、前回調査と比較して大きな変化は確認されなかった。本保護林を代表する森林植生であるブ</p>

		<p>ナの優占した植物群落は、環境条件が厳しい場所に成立しているため群落の成長は悪いが、その条件に適応した形で成立している。また、より条件の厳しい場所に成立している、自然低木群落、湿田・雪田植物群落、自然ササ草原も、群落構造に変化は認められず、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。</p>
森林生態系保護地域	<p>利根川源流部・燧ヶ岳周辺 20,085.77ha</p>	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <p>新潟県治山課から公表されているナラ枯れ被害本数の推移をみると、平成24年には通常の状態に収束しているものの、今回調査で調査プロット内に生育するミズナラは全て枯死し、後継樹も見受けられない状態にある。また、雪田植生の水位低下は、今年度雨が一時的に少なかった影響と考えられるため、大きな影響はないだろうと考えられる。上記以外の群落については、特に問題は見受けられず、今後も良好な状態で維持されていくものと評価される。</p>
森林生態系保護地域	<p>佐武流山周辺 3,953.53ha</p>	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <p>プロット1の風衝地低木群落でオオシラビソの枯損木が多くみられる。これは、風衝地であることによる影響と考えられる。また、プロット1以外では、大きな変化は見受けられず、本保護林の主要な群落に大きな問題はないと評価される。</p>
生物群集保護林	<p>甲子・二岐山周辺 3,100.08ha</p>	<p>【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二岐山ミズメ林木遺伝資源保存林 (8.17ha) <p>高木層を形成するミズメは若干枯損が進行しているものの健全に生育しているが、保護林内全域において次世代を担うミズメの低木・実生の生育は極めて少ない状況にある。ミズメの更新が行われていないのは、ミズメが崩積土に一斉発芽する性質を有した陽樹であるためであるが、現段階で生育しているミズメの成木は、種子散布のための母樹として非常に重要であると評価される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲子・二岐山周辺冷温帯ブナ植物群落保護林 (3,091.91ha) <p>新設の保護林のため、これまでモニタリング調査は実施されていない（平成29年度に基礎調査、平成30年度にモニタリング調査を実施予定）。保護林設定時の資料によると、保護林のほとんどの区域がブナ群落により覆われ、二岐山や小白森山の山頂付近には、亜高山帯に見られる針葉樹の自然低木林であるキャラボク群落が分布している。また、山腹には、アスナロ群落（ヒノキアスナロ群落を含む）が分布し、三本槍岳付近の高山帯には、コケモモやハイマツ等からなる高山低木群落分布し、その下には、亜高山帯植生の草原であるササ群落が広がっている。</p>
生物群集保護林	<p>越後山脈 2,008.53ha</p>	<p>【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】</p> <p>森林調査の結果、前回調査と比較して大きな変化は確認されなかった。本保護林を代表する森林植生であるブナの優占した植物群落は、低標高地から高標高地にわたって分布し、次世代を担う亜高木・低木も含め、健全に生育して正常な更新が</p>

		行われ、保護林は良好な状態で維持されていると評価される。
生物群集保護林	大佐飛山地 8,152.35ha	<p>【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】</p> <p>本保護林には、日本海側を特徴づけるブナ林や、林床植生としてチシマザサの繁茂、屋根地形に多いアスナロ林の存在、ダケカンバ群落の下降現象などの特徴的な群落が分布し、保護対象群落である日本海側と太平洋側の推移地帯の植物群落は健全な状態で維持されていると評価される。</p>
生物群集保護林	尚仁沢 616.34ha	<p>【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】</p> <p>保護対象群落であるブナーイヌブナ林が良好な状態で生育しており、本保護林は健全な状態で維持されていると評価される。ただし、保護林内の多くはミズナラ群落が占め、保護対象群落である、太平洋側気候域に残され学術的に極めて貴重で原始的なブナーイヌブナ林は、天然記念物に指定された『尚仁沢上流部イヌブナ自然林』に認められる程度であると思われる。</p>
生物群集保護林	阿武隈高地 1,189.84ha	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <p>高木層を形成するアカマツや、コナラ、クリなどの老木は衰退傾向にあり、下層に土地的・気候的極相林となるモミやヒメコマツがやや優占して生育している状況にあるため、今後はモミ群落及びヒメコマツ群落へ遷移していくものと考えられる。</p>
生物群集保護林	小松原湿原 1,498.84ha	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松原ブナ林木遺伝資源保存林（9.02ha） <p>本保護林内を構成するブナの上層木に倒木や、枝先枯損が多く確認されているものの、亜高木層～草本層までブナの後継樹の生育が見られるため、今後も継続してブナ群落として維持されていくものと推測される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松原湿原植物群落保護林（1,489.82ha） <p>本保護林を構成する主要な要素である、湿原植生、ブナ群落、オオシラビソ群落のいずれも、特に問題となる変化は起こっておらず、今後も維持されていくものと考えられる。</p>
生物群集保護林	守門岳 1,778.26ha	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守門ブナ植物群落保護林（698.89ha） <p>本保護林へのアプローチとして使う国道289号線が通行止めとなっており未到達であるが、保護林台帳によると、本保護林は、ブナ、ミズナラを主体とする林齢121年生以上の優良な天然性広葉樹林である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守門岳ブナ植物群落保護林（1,079.37ha）

		<p>森林調査の結果、本保護林内の主要な群落である自然低木群落及びブナ群落において、雪害や風害の影響は見られたものの、特に今後問題となりそうな変化は見られなかった。このため、保護林内の自然低木群落及びブナ群落は、今後も維持されていくものと評価される。</p>
希少個体群保護林	<p>和尚山ブナ 23.17ha</p>	<p>【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】</p> <p>ナラ枯れの発生、倒木などは認められず、前回調査と比較して大きな変化は確認されていない。ミズナラ、ブナの優占した温帯性林は健全に生育しており、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。</p>
希少個体群保護林	<p>猿ヶ城アズマシャクナゲ 28.40ha</p>	<p>【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】</p> <p>アズマシャクナゲの個体の生育状態は良好であるが、アズマシャクナゲの保護林内の分布は局所的であり、生育本数は低木6個体と実生2個体が確認された程度であるが、アズマシャクナゲを含む植物群落は健全に生育しており、本保護林は良好な状態で維持されている。</p>
希少個体群保護林	<p>板木リンボク・カゴノキ 10.68ha</p>	<p>【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】</p> <p>保護対象である、リンボク、カゴノキの生育密度は低いものと考えられるが、保護林内はコナラ、クリ等の群落が生育し、暖帯性林を構成するウラジロガシ、ヒサカキなどの生育も確認されてる等、良好な状態で維持されていると評価される。</p>
希少個体群保護林	<p>西金砂スダジイ 14.39ha</p>	<p>【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】</p> <p>保護対象であるスダジイは、シラカシ群落内に散生しており、シラカシ群落については、前回調査と比較して大きな変化はなく、照葉樹林帯と落葉広葉樹林帯との中間的な要素を持った林分が良好な状態で維持されていると評価される。</p>
希少個体群保護林	<p>花瓶山ブナ・イヌブナ 11.93ha</p>	<p>【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】</p> <p>保護対象であるブナが優占する冷温帯性林は健全に生育しており、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。</p>
希少個体群保護林	<p>黒沢ウラジロモミ・クロベ遺伝資源 13.88ha</p>	<p>【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】</p> <p>保護林上部の岩角地上に広がる針葉樹林は健全に生育していると評価される。シカの痕跡はあるが、大きな影響は現れていない。</p>
希少個体群保護林	<p>刈込湖コメツガ遺伝資源 35.28ha</p>	<p>【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】</p> <p>土壌層が薄く礫が多い立地に土地的極相林として成立している群落のため、枯損木や倒木は見られるものの、前回調査と比較して大きな変化は確認されていない。保護対象であるコメツガなどの針葉樹の成木、中低木、実生は健全に生育しており、本保護林は良好な状態で維持、更新されていると評価される。シカの痕跡はあるが、大きな影響は現れていない。</p>

希少個体群保護林	裏見の滝コナラ遺伝資源 4.96ha	【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】 コナラ・クリの中低木、実生など、更新木の生育はほとんど認められないが、アカマツが優占し、コナラ・クリが混在する林相にあり、前回調査と比較して大きな変化は確認されていない。保護対象であるコナラ、クリの成木は健全に生育しており、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。シカの痕跡はあるが、大きな影響は現れていない。
希少個体群保護林	原付ヒノキ 9.01ha	【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】 前回調査と比較して大きな変化は確認されていない。下層にはヒノキの稚樹や幼木が確認されており、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。
希少個体群保護林	大真名子コメツガ 12.24ha	【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】 コメツガ群落内では、枯損は進行しておらず、下層にコメツガの稚樹や幼木が確認され、健全に生育していることが確認されたが、保護林全体では枯損が進行し、オオシラビソ・シラビソの優占する林況へと推移しているものと評価される。
希少個体群保護林	観音山スギ・シブカワツツジ 7.94ha	【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】 高齢級のスギ植林は、天然林的な様相を呈しており、前回調査と比較して大きな変化は確認されていない。保護対象である高齢級のスギが優占した天然性林は健全に生育・更新しており、本保護林は良好な状態で維持されていると評価される。
希少個体群保護林	本坂峠ヤブツバキ 5.76ha	【評価結果：平成29年度モニタリング結果概要】 保護対象種であるヤブツバキは、亜高木層に良好な状態生育していることが確認されており、保護林は良好な状態で維持されていると評価される。
希少個体群保護林	増沢モミ 7.68ha	【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】 高木層を構成するモミに若干の枯損の進行が見られるものの、高木層はモミが優占した状態にあり、また、林内の亜高木、低木、草本層には次世代を担うモミの生育が認められ、保護対象であるモミ群落は健全な状態で維持されていると評価される。
希少個体群保護林	滝サワラ 7.51ha	【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】 高木層・亜高木層はサワラが優占した状態にあり、保護対象であるサワラ群落は健全な状態で維持されていると評価される。ただし、林内の低木、草本層には次世代を担うサワラの生育がほとんど認められない。また、伏状更新による成林の状況は確認されたが、新たな更新の状況は確認されていない。本保護林に生育しているサワラは中齢木が多く、密度が高いため、今後も進んでいくと考えられる種内競争による淘汰の段階で、伏状更新等の更新が行われていく可能性もあると考えられる。

希少個体群保護林	八幡岳周辺ブナ・ミズナラ 214.21ha	新設の保護林のため、現在までにモニタリング調査は実施されていない（平成29年度に基礎調査、平成30年度にモニタリング調査を実施予定）。保護林設定時の資料によると、八幡岳の頂上から東側～南側の標高800m～1,100mの急斜面に成立している、ブナ、ミズナラ、カスミザクラ、コナラからなる群落である。
希少個体群保護林	俎倉山スギ 143.95ha	【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】 高木層でスギと競合する高木類が多いものの、林内の亜高木、低木層には次世代を担うスギの生育が認められ、保護対象であるスギ群落は健全な状態で維持されていると評価される。ただし、ツキノワグマによる樹皮剥ぎ被害の発生が認められている。
希少個体群保護林	白山ケヤキ遺伝資源 6.53ha	【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】 高木層・亜高木層に生育するケヤキは健全に生育し、また、林内には、次世代を担う、ケヤキの実生の生育も認められ、本保護林の設定目的である、裏日本型東北・北海道型におけるケヤキの遺伝資源の保存に問題は生じていないと評価される。ただし、ニホンジカの生育密度が高いようで、ケヤキ稚樹の生育に影響を及ぼしている可能性がある。
希少個体群保護林	目指岳コウヤマキ遺伝資源 10.33ha	【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】 保護林内の上層に生育しているコウヤマキは数本と生育量は少ないものの、現時点では健全に生育している。また、次世代を担うコウヤマキの低木や実生・稚樹は、コウヤマキ成木の林下にしか見られないが健全に生育している。このため、本保護林の設定目的である、裏日本型東北・北海道型におけるコウヤマキの遺伝資源の保存に問題は生じていないと評価される。
希少個体群保護林	大久蔵トチノキ遺伝資源 8.83ha	【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】 高木層に生育するトチノキは健全に生育し、また、林内には、次世代を担う、トチノキの中木・低木・稚樹・実生の生育も認められ、本保護林の設定目的である、裏日本型東北・北海道型におけるトチノキの遺伝資源の保存に問題は生じていないと評価される。ただし、保護林内のトチノキは老齢木が散在する程度でありトチノキの現存量は少ない。
希少個体群保護林	猿ヶ城岩オオフジシダ 5.25ha	【評価結果：平成25年度モニタリング結果概要】 保護対象種であるオオフジシダの生育が確認された場所は限られるが、生育地では群生して生育し、保護林内のオオフジシダ群落は健全な状態で維持されていると評価される。ただし、保護林内におけるオオフジシダの生育地は、保護林外（国有地の河川管理区域）に連続して広がっており、むしろ、生育地の中心は、より湿潤な環境条件にある保護林外の河川へと繋がる凹型斜面地である。

希少個体群保護林	八溝山シロヤシオ 43.59ha	【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】 ミズナラが優占して生育する林相となっており、保護対象であるアカシデは、ミズナラ林の一部の林分に僅かに混在している程度である。また、ケヤキについても保護林内の谷地形の一部に生育している程度である。このため、本保護林内でのアカシデ・ケヤキの林木遺伝資源の保存には難題を伴うと評価される。本保護林の尾根部には、樹形の大きなシロヤシオの群落が発生しており、亜高木層にシロヤシオが優占し、ほぼ純林の様相を呈し、生育状態は良好である。
希少個体群保護林	流石山・大峠ミヤマナラ 97.31ha	【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】 本植物群落保護林の核をなす流石山・大峠周辺の山頂稜線域には、ミヤマナラ群落やハイマツ群落などの風衝地低木群落を主体に、高山ハイデ及び風衝草原、ササ自然草原、雪田草原からなる多彩な植物群落が分布しており、保護対象群落である山頂稜線域の亜高山帯植生は健全な状態で維持されていると評価される。
希少個体群保護林	谷川岳サワグルミ遺伝資源 8.28ha	【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】 サワグルミの高木・亜高木は、健全に生育している。このため、遺伝資源保全上の大きな問題は生じていないが、林内に中木・低木の生育は少ないため、樹木の更新は行われていないものと判断される。低木層、草本層では他種が繁茂しており、サワグルミ実生の生育を被圧しているため、仮に高木の枯損によるギャップが生じてもサワグルミの更新は見込みが薄いと評価される。
希少個体群保護林	玉原アスナロ 5.73ha	【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】 保護林内にはアスナロの純林が成立しているが、若齢から中齢木が多いため生育密度が高く、高木層・亜高木層において種内競争が行われており、樹勢の弱い生育不良の個体が淘汰されている状態にある。このため、林内はアスナロの枯損木がやや多くなっている。今後もこの種内競争による淘汰が行われ、本アスナロ林は、中齢から高齢木からなる林相に変化していくものと思われる。
希少個体群保護林	法師クロベ 17.41ha	【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】 保護対象樹種であるクロベに病虫害、気象害、虫害、動物被害等は見受けられず、現段階では健全に生育している。また、次世代を担うクロベの低木・稚樹は少ないが、草本層も繁茂し、シカの食害による影響は現れていないため、保護対象群落であるクロベ群落は健全な状態で維持されていると評価される。
希少個体群保護林	犬ヶ岳ホンシャクナゲ 115.00ha	【評価結果：平成26年度モニタリング結果概要】 本保護林内におけるホンシャクナゲの分布は、風衝地低木林が広がる犬ヶ岳～サワガニ山までは、クロベやハイマツ低木の林下や、アカミノイヌツゲ、ナナカマド低木に混じり、比較的密度高く生育しているが、サワガニ山を超えると、オオシ

		ラビソやダケカンバの亜高木林が見られるようになり、ホンシャクナゲは、オオシラビソ樹冠下や、株立木の根元などのササの密度が薄いところの林下に僅かに生育しているに過ぎない状況にある。このように、保護対象種であるホンシャクナゲの生育量は全体的には少ないが、保護林の北部を中心に比較的多く生育している状況が確認され、また、稚樹から高さ 1m 程度のものまで生育していることから、現時点では特に問題はなく、健全に生育していると評価される。
希少個体群保護林	蓮華ライチョウ 974.82ha	【評価結果：平成 26 年度モニタリング結果概要】 ハイマツ群落は、群落高が低いものが多く、ライチョウの繁殖環境として好適な状態が保たれていると考えられる。また、ハイマツ群落に接して、高山ハイデ・風衝草原、雪田草原、高茎草原、風衝低木林、ガレ場など、ライチョウの採餌、休息、砂浴びの場となる環境が分布しており、多様な植生環境を必要とするライチョウの生息環境は良好に保たれていると評価される
希少個体群保護林	龍ノ山ヒメコマツ遺伝資源 5.63ha	【評価結果：平成 27 年度モニタリング結果概要】 保存対象樹種であるヒメコマツの高齢木や中齢木に病虫害、気象害、虫害、動物被害等は見受けられず、現段階では健全に生育している。しかし、林内に、低木・稚樹、実生は少なく、ヒメコマツ群落の更新は停滞しているものと評価される。ただし、ヒメコマツは陽樹のため、通常、林下での更新はないものと考えられ、林下での更新よりも、種子散布により、尾根部や急傾斜岩角地に新たに出現した裸地などで更新していくといった特性を有するものである。このため、高齢木が健全に生育し、次世代を担う亜高木も生育しているといった点で、林木遺伝資源の供給源としての重要な役割を果たしていると評価される。
希少個体群保護林	喰丸峠ケヤキ遺伝資源 5.93ha	【評価結果：平成 27 年度モニタリング結果概要】 昨年度の基礎調査では、マイマイガの大発生継続により、ケヤキの活力が低下し、ケヤキ林としての存続が危ぶまれる事態に発展することが懸念された。基礎調査を行った 7 月下旬は、二度吹き目の状態で、盛夏から晩夏にかけて、さらなる食害が及んだ可能性がある。しかし、今年度の本調査では、既に蛾の大量発生は収束しており、ケヤキの葉量の低下も認められなかった。このため、保存対象樹種であるケヤキの老木、亜高木は、健全に生育し、遺伝資源保全上の大きな問題は生じていないと評価される。また、場所によっては、ケヤキの亜高木、低木も認められており、更新も行われているものと評価される
希少個体群保護林	飯豊スギ 36.00ha	【評価結果：平成 27 年度モニタリング結果概要】 保護対象群落であるスギ群落は、胸高直径 65cm 程度の高齢木を筆頭に、様々な幹径のものが混在し、稚樹や実生も見られ、主木、更新木ともに良好に生育していると評価される。

希少個体群保護林	根本沢シオジ遺伝資源 21.28ha	【評価結果：平成27年度モニタリング結果概要】 保存対象樹種であるシオジの老齢木に病虫害、気象害、虫害、動物被害等は見受けられず、現段階では健全に生育している。また、林内にシオジの中齢木、低木・稚樹、実生も生育している。さらに、老齢木が生育する林分と、中齢～高齢木が優占する林分などが認められることから、保護林内でシオジ林の更新が健全に行われているものと評価される。
希少個体群保護林	白川ウラジログシ遺伝資源 5.08ha	【評価結果：平成27年度モニタリング結果概要】 本保護林は、常緑樹である老齢のスダジイに、落葉樹である老齢のイタヤカエデやケヤキが混在する林相にあり、植生遷移上の次世代を担う樹種として、中齢級のアカガシ、ウラジログシ、カゴノキなどの常緑樹が混生している状況にある。地形的に急峻な立地にあることから、今後は、アラカシ・ウラジログシなどのカシ類が優占した林相へと遷移が進行していくものと評価される。
希少個体群保護林	津島マツ遺伝資源 3.43ha	【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】 平成28年時点では保護林全域が福島第一原子力発電所の事故による帰宅困難区域内にあるため、現地調査は未実施である。
希少個体群保護林	赤井岳ヒノキ遺伝資源 10.55ha	【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】 森林調査の結果、保存対象種ヒノキは、枝枯れ・腐朽・空洞が見られる個体があったものの、樹勢は良い状態の個体が多く、林床にはヒノキの実生も多数確認され、今後もヒノキ群落またはヒノキを含む群落として維持されていくものと思われる。
希少個体群保護林	黒斑山カラマツ 75.80ha	【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】 毎木調査の結果、樹冠を形成するカラマツに枝先枯損などが目立つが、大径木の枯損木などは見られず、概ね樹勢は良好な状態にあると考えられる。下層に後継樹が育っていないものの、当面の間はカラマツ林として維持されていくものと考えられる。保護林内にはシラビソやコメツガが小さい群落も見られることから、長い時間を欠けて気候的極相林となるシラビソ群落やコメツガ群落へ遷移していくものと評価される。
希少個体群保護林	万座カラマツ 22.96ha	【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】 保護対象であるカラマツ群落を構成する高木層のカラマツに、樹勢の低下や枯損などは確認されず、今後もカラマツ群落として維持されていくものと考えられる。ただし、気候的極相林となるコメツガや、シラビソ、トウヒなどが亜高木層でやや発達してきており、時間がかかると考えられるが、今後これらの樹種へ遷移していくものと推測される。

<p>希少個体群保護林</p>	<p>箱根ヒメシャラ・ハコネコメツツジ 150.03ha</p>	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメシャラ植物群落保護林（122.15ha） ヒメシャラの老齢木に樹勢低下の兆候がみられるものの、亜高層や低木層に後継樹の生育が見られる。このため、ヒメシャラの密度は低いものの、今後もヒメシャラを含む群落として維持されていくものと考えられる。 ・ハコネコメツツジ植物群落保護林（27.88ha） 森林調査、植生調査の結果、保護対象群落であるハコネコメツツジ群落に大きな変化は認められず、基礎調査段階で確認されたノウサギの食痕や、シカによる食害、周囲の低木の被覆に伴う樹勢の低下などは確認されず、良好な生育状態にあると評価される。また、ハコネコメツツジ群落が見られる稜線の周囲に広がる林分にはヒメシャラの亜高木林が確認され、こちらでも枯損や樹勢の低下ではなく、良好な生育状態にあると評価される。
<p>希少個体群保護林</p>	<p>榎橋ブナ遺伝資源 17.60ha</p>	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <p>保存対象種のブナに生育状態の悪い個体は確認されず、また後継樹となるブナの実生も少数ながら確認されていることから、現在のところ大きな問題はないと評価される。</p>
<p>希少個体群保護林</p>	<p>雨生池アマゴイルリトンボ 12.75ha</p>	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <p>今回の現地調査の結果、アマゴイルリトンボは、低木が鬱蒼としておらず、草本層も適度に生育する林床環境を好む傾向があると考えられる。このため、保護林内の林床環境の管理方針としては、雨生池の水辺周辺で、木漏れ日やギャップのある場所において、低木が密生する箇所については間伐・部分伐を行い、草本層は1m程度を残して草刈りを行うことが望ましいと考えられる。</p>
<p>希少個体群保護林</p>	<p>笠堀カモシカ 5,267.41ha</p>	<p>【評価結果：平成28年度モニタリング結果概要】</p> <p>本保護林に生息するカモシカの生活基盤となる主要な群落の分布状況に大きな変化は見受けられず、今後もカモシカの生息環境は保全されていくものと評価される。</p>